



6年生の「背中」が教えてくれたこと…『素直』に生きる『強さ』

今日3月17日（木）は、6年生の修了式でした。そして、明日3月18日（金）は卒業式です。6年生はこの1年間、葦高小学校のリーダーとして、どんな状況にも「素直」に向き合い、「前向き」に努力を重ねる「強さ」を、下級生に対して、言葉でなく、実践、「背中」で、見せ続けてくれました。



足高ほのぼの基金記念品贈呈式

今年度は、昨年度以上に感染症対策という理由で、多くの学校行事や参観日などを延期したり、内容を縮小したりせざるを得ない日々が続きました。それらの判断をするたびに、我々教職員は、子どもたちの楽しみや成長の機会を奪っているように感じ、本当に申し訳ない気持ちを抱いていました。しかし、そのような中でも、葦高の子どもたちの「明るく、前向きな学校生活」の様子を見ると、子どもたちから「心配しなくても私たちは大丈夫ですよ。」と我々に教えてくれているようで、日々、勇気づけられて来ました。

「素直さは、人を強く、正しく、聡明にする！」と言われますが、特に最高学年の6年生は、現在の状況を悲観してできないことを数えるのではなく、「どうすればできるのか？」と、常に「できること」を数えながら、その与えられた境遇に『素直』に生き、『謙虚』に日々を歩んで来ました。

彼らは、春の運動会、秋の修学旅行、陸上記録会、冬の学芸会という例年のような「6年生物語」を描くことはありませんでしたが、春の「海の学習」、秋の「ささりんピック」、「エンジョイ・ツアー」、校内での「陸上記録会」、冬の体育館でクラスごとの「学習発表会」、そして、日々の「委員会活動」や「奉仕活動」など、彼らにしか創れない「6年生物語」を描きながら、日々成長して来ました。彼らは失ったのではなく、「彼らにしかできない新しい6年生物語」を自分たち力で創り、描き上げました。その「素直さ」「強さ」に大きな拍手を贈りたいと思います。

素直さを失った時、逆境は卑屈を生み、順境は自惚れを生みます。これからの社会は、コロナ禍のような「想定外の逆境」が想定される世界になるかもしれません。巣立っていく6年生には、葦高小学校で実践した『素直に生きる強さ』を糧に力強く、自らの力で未来を切り開いてほしいと心から願っています。

校長 藤井 朗

自分たちで創り上げた「6年生物語」



エンジョイツアー



学習発表会



ささりんピック



校内陸上記録会



朝の校旗掲揚



朝の奉仕活動

委員会活動